

里海と生物多様性 - アジアでの活動、日本での活動 -

2010年10月には、生物多様性国際会議（COP10）が開催されます。

陸上の生物は、目に触れやすいこともあり、何となく親しみを持つことができます。一方、海の生物は食料として目に触れますが、海へのアクセスが簡単では無いことから、海の生物を直接目にする機会は、非常に少ないものとなっています。このことが、海の汚染の拡大、生物種の減少、漁獲量の減少に繋がってきているのではないのでしょうか。この反省に立った新しい沿岸域環境保全の概念である「里海」が日本から世界に広がりつつあります。

この国際フォーラムでは、日本およびアジアにおける「里海」の動向とその取り組みの一端を紹介します。一人一人が生物多様性および生物生産性の向上にどのように係わるのかを考えるきっかけになることを期待しています。

日 時 平成22年2月10日（水） 13:30～16:30
会 場 ラッセホール 5F サンフラワー（神戸市中央区中山手通 裏面地図参照）
言 語 英語・日本語（同時通訳）
参 加 費 無料
募 集 定 員 80名（定員を超えた場合のみ、連絡をします。）
プログラム

里海と生物多様性についての日本の動き

いまなぜ「里海」か - （仮題）

環境省閉鎖性対策室

里海と生物多様性をめぐる国際的な動き

- EMECS8 および EAS-Congress 里海ワークショップを中心に -

広島大学名誉教授 松田治

日本での活動例

「中津干潟における里海里浜活動」

NPO 法人 水辺に遊ぶ会（大分県中津市） 足利由紀子

「藤前干潟から伊勢湾生命流域へ」

伊勢・三河湾流域ネットワーク 辻淳夫

アジアでの活動例

「タイにおける生態系に基づいたアプローチ：持続可能な養殖に向けた先駆的取り組み」

トランプ沿岸水産養殖ステーション チーフ プス・ソンサンジンダ（タイ）

「フィリピンの沿岸域コミュニティにおける生物多様性のための伝統的慣行について」

フィリピン大学教授 E. フェレル、(フィリピン)

主 催 財団法人国際エメックスセンター

後援(予定) 兵庫県、社団法人瀬戸内海環境保全協会、瀬戸内海研究会議

連携協力 生物多様性条約第10回締約国会議支援実行委員会（申請中）

参加申込 裏面の申込書により FAX（または、同項目を記載した e-mail）で、お申し込みください。

エメックス国際フォーラム(2月10日開催)
 里海と生物多様性 アジアでの活動、日本での活動

参加申込書

お名前	ご所属	連絡先(電子メールまたはFAX)

注:記入いただいた個人情報は、この行事の管理に使用いたします。

今後、国際エメックスセンターが開催するイベント等のご案内をさせていただく場合がございます。

送付先: FAX で 078-252-0404 または、
 電子メールで 上記内容を staff@emecs.or.jp に

問い合わせ先

財団法人国際エメックスセンター エメックス国際フォーラム担当: 鈴木、山田
 tel 078-252-0234 fax 078-252-0404 e-mail staff@emecs.or.jp



ラッセホール

〒650-0004 神戸市中央区中山手通 4-10-8

電話代表 TEL. 078-291-1117

<http://www.lassehall.com/hall/access/index.html>

交通アクセス

神戸市営地下鉄「県庁前駅」下車、徒歩 5 分

JR・阪神「元町駅」下車、徒歩 8 分

JR・阪急・阪神・神戸市営地下鉄「三宮駅」下車、
 徒歩 15 分

高速「花隈駅」下車、徒歩 15 分